

秋吉台 一雨ごとに遠目には緑の草原

6月といえば梅雨。しかしその晴れ間の暑さは真夏並み。梅雨前線も一時どこかへ消えてまた現れたり…。これでは7月、8月の暑さはどうなるのだろうと心配しても、これも自然の季節の流れ。秋吉台上は一雨ごとに、遠目には緑の草原に見えます。例年ならササバランが咲く頃ですが、去年と同じ場所を何度も探しても見つかりません。草の根を分けてようやく小さな葉が確認できたものの、これでは開花は望めないかもしれません。また、北山の北側斜面に自生するカキランの群生も気になるところです。

(写真は6月26日の北山のように)



季節の花 見たいもの「ヒルガオの鉢植え」

ヒルガオ 畑の土手や荒地などに生えるヒルガオ科のツル性多年草。アサガオに似ていますが、朝から夕方近くまで咲いていることもあります。花はピンク色で野生の花としては大きくきれいです。アサガオに似ていますが、プランターなどで栽培されているのは、まだ見たことはありません。

ウラジロマタタビ 秋吉台のブッシュの中にも生えるマタタビ科のツル性植物。三角田川沿いにあるのに今年初めて気が付きました。たくさんの咲いた花の割には、果実は少ないようです。

ノビル 土手や荒地などどこにでも生えるネギ科の多年草。花茎の先端にまるい花穂を付けますが、そのままカゴから芽を出すこともあります。花は白くてかわいく、花火のようにも見えます。



観察会「森の昆虫教室・カブトムシ」(6月21日)

森の昆虫教室・カブトムシ編を行いました。曇り空で蒸し暑い一日となりましたが、講師の角田先生と一緒にエコフィールドをまわって昆虫を観察しました。いろいろな昆虫がそれぞれの場所で生活しているのが分かりました。後半はレクチャールームにもどって朽木を割ってみました。クワガタムシの幼虫は見つかりませんでした。その後、角田先生からカブトムシのオス・メスのペアがプレゼントされ、カブトムシについて、またその飼育法を学びました。



モリアオガエルの卵のレスキュー (6月14日)

雨の日が続く、カエルの鳴き声が聞こえます。モリアオガエルのようです。三角田川に架かる橋から川を見ると、その水流の上に垂れ下がったイタダリの枝にモリアオガエルの卵塊が見えました。今は水が流れていますが、やがて川底は干上がってしまいます。そうならなくても生まれたオタマジャクシは流されて秋吉台の地下へと吸い込まれてしまいます。早速、梯子を川へ降ろして卵を救って、エコ池に放流しました。今日は18個の卵塊をレスキューしました。



ササユリ きれいな花の悲しい宿命

所用で通りがかった国道沿いで、蕾が1個だけ付いたササユリを見つけました。あと1週間で開花と思って後日行ったら蕾がなくなって茎葉だけが残っていました。シカが食べたのかも…。残念に思いながら先へ行くと道路脇に一輪咲いているのに出会いました。今年初めて開花した株でしょう。翌日、知人にも見せたいと思って案内したら、花が見当たりません。何度かその辺りを往復して探しましたが茎も葉も見えませんでした。このようにして絶滅していくのかと思うと悲しくなります。



7月の行事



7月13日(日) 観察会「森の昆虫教室・クワガタムシ」

エコフィールドで昆虫観察とクワガタムシの飼育法を学びましょう。